



最優秀賞受賞にあたって

広島県東広島市立河内小学校 ふくしまちえこ 福島千恵子

このたびは、このような素晴らしい賞をいただくことができたことを大変感謝しております。どうもありがとうございました。この賞は私たちが日々行っている教育実践について一定の評価をいただいたものと考え、大変光栄に存じております。

私は、日ごろの教育実践を論文にしたためることについて、次のようにとらえています。論文を書くということは、自分の教育実践に対する有用性を確かめることであるとともに、子どもたちの見せてくれる、または持っている「キラリ」を再発見することであると思っています。

論文に書く内容はまさに自分の目の前にいる子どもたちのキラリとした姿であり、その子どもたちは自分の教育実践の「主役」であると考えています。しかし、いつもキラリとした表情を見せてくれるわけではありません。そこにはやはり教育者の工夫やまなざし、心が必要であると思います。子どもたちが、キラリとした姿を見せてくれる、それを論文に書き上げたとき、私はとても子どもたちがいとおしく感じてきます。

今回、理科教育について論文を書きました。理科という学習は子どもの感性を揺さぶるダイ

ナミックな学習です。また、自然環境、自然現象の不思議や神秘に感動を覚え、それを追求しようとする子どもの心が動く学習であるとも思います。私は理科教育に関わって論文を書きましたが、それぞれの教科には、それぞれの「学びの醍醐味」があると思います。

この醍醐味を子どもたちに味わせていくためには、教師の授業づくりの工夫が必要になります。日々の教育実践を論文に書くという作業を通じて、教師である自分自身の授業づくりの工夫が、子どもたちに学びの醍醐味をきちんと味わせていることにつながっているか？ 子どものキラリが見えているか？ それを確かめることになると思います。

このたびいただいたこの賞の重みを受け止め、明日からまた子どもたちと共に、よりよい授業づくりのために奮闘してまいります。

このたびは審査をしていただいた審査委員の先生方、それから、このような論文を書く機会を与えてくださり、そして素晴らしい授賞式を開催してくださった東京書籍の皆様方に深く感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。